カ　書くこと

(ｱ) 趣味や好き嫌いなど，自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。

(ｲ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。

(ｳ) 日常的な話題について，簡単な語句や文を用いて，出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

(ｴ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分の考えや気持ち，その理由などを書く活動。

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり，主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア 言語の使用場面の例

(ｱ) 生徒の身近な暮らしに関わる場面

・ 家庭での生活　・ 学校での学習や活動
・ 地域の行事　など

(ｲ) 特有の表現がよく使われる場面

・ 自己紹介　・ 買物　・ 食事
・ 道案内　・ 旅行　・ 電話での対応
・ 手紙や電子メールのやり取り　など

イ 言語の働きの例

(ｱ) コミュニケーションを円滑にする

・ 話し掛ける　・ 相づちを打つ　・ 聞き直す
・ 繰り返す　など

(ｲ) 気持ちを伝える

・ 礼を言う　・ 苦情を言う　・ 褒める
・ 謝る　・ 歓迎する　など

(ｳ) 事実・情報を伝える

・ 説明する　・ 報告する　・ 発表する
・ 描写する　など

(ｴ) 考えや意図を伝える

・ 申し出る　・ 約束する　・ 意見を言う
・ 賛成する　・ 反対する　・ 承諾する
・ 断る　・ 仮定する　など

(ｵ) 相手の行動を促す

・ 質問する　・ 依頼する　・ 招待する
・ 命令する　など

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，小学校や高等学校における指導との接続に留意しながら，次の事項に配慮するものとする。

ア　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，具体的な課題等を設定し，生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら，コミュニケーションの目的や場面，状況などを意識して活動を行い，英語の音声や語彙，表現，文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ　学年ごとの目標を適切に定め，３学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。

ウ　実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は，２の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また，小学校第３学年から第６学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

エ　生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とする。その際，生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。

オ　言語活動で扱う題材は，生徒の興味・関心に合ったものとし，国語科や理科，音楽科など，他の教科等で学習したことを活用したり，学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

カ　障害のある生徒などについては，学習活動を行う場合に生じる困難